

ニュージーランドにおけるプレイグループの特徴と課題 —プレイグループ認証制度に焦点をあてて—

A Study of the Characteristics and Problems of the Playgroup in New Zealand
: Focusing on the Certification scheme of the playgroup

石毛 久美子
Kumiko ISHIGE

要旨

ニュージーランドでは、2002年より乳幼児教育10か年戦略に基づいて大規模な乳幼児教育改革が行われた。この改革の流れのなかで、プレイグループは制度的見直しを迫られることになる。プレイグループは他の乳幼児教育サービスとともに法令枠に組み込まれ、新たにプレイグループ認証制度が確立された。このことにより、プレイグループは同国の乳幼児教育サービスとして明確に価値づけられると同時に、必至の課題として、サービスの質の確保と向上に取り組まなければならなくなった。そしてサービスの質の確保と向上に対して、プレイグループ認証制度は大きな役割を期待されることになる。

本稿では、改革の影響を受けて変容しつつあるプレイグループについて、プレイグループ認証制度に焦点をあてて考察を行った。認証手続きや認証規準を明らかにすることで認証制度の概要について整理したのち、実際のプレイグループを事例に認証制度の運用状況を確認することで、最終的にプレイグループの特徴と課題を抽出した。

【キーワード】 ニュージーランド プレイグループ 認証制度

はじめに

ニュージーランドでは、2002年より乳幼児教育10か年戦略『未来への道すじ』(A 10-year Strategic Plan for Early Childhood Education, Pathways to the Future: Nga Huarahi Arataki)に基づいて、包括的な乳幼児教育改革¹⁾が実施された。この改革では、1) 乳幼児教育サービスへの参加やアクセスの拡大、2) 乳幼児教育の質の向上、3) 保護者や地域との協同的な関係の促進、などが目標に掲げられ、目標達成に向けた様々な取り組みが行われた²⁾。

また改革の流れのなかで教育省 (Ministry of Education) は、乳幼児教育における親やファナウ (拡大家族) の役割について再認識する必要があるとして、彼らの乳幼児教育におけるエンパワーメント³⁾の促進を強調し、親主導型の施設やサービス⁴⁾の質の確保と向上を一つの検討課題とした。

こうした動向は、プレイグループについての理解にも影響をもたらし、プレイグループは「確かな」親主導型の乳幼児教育サービスとして位置づけられることになり、制度的な見直しが行われた⁵⁾。

またプレイグループ⁶⁾は、この10年、グループ数及び利用者数ともに穏やかな増加傾向にある⁷⁾。この傾向は、近年、長時間保育や延長保育を実施している教師主導型の教育ケアセンターが、顕著に見られるなかで特徴的といえる。

改革の影響を受けて変容しつつも、ニュージーラ

ンド社会に受け入れられているプレイグループについての検討は、今日の同国における乳幼児教育の動向を理解するうえでも意義ある検討と言える。

プレイグループについての先行研究は、日本においては主に日本人プレイグループの活動を紹介したものを散見することができる。またニュージーランドの乳幼児教育制度や改革についての論考において、プレイグループの存在が記されていることを確認することができる。中でも、松川の研究⁸⁾ではプレイグループの歴史の概要と実際のプレイグループの活動の様子が詳しく紹介されているため、本研究の検討においても貴重な資料といえる。しかし、現在のところ、ニュージーランドのプレイグループを主テーマに検討を試みた論考は見当たらない。

以上を踏まえ、本稿においては、まず、プレイグループの制度的な位置づけとプレイグループ認証制度について、具体的に認証の仕組みと規準内容を整理することで明らかにする。次にプレイグループの実際として、首都ウェリントン市 (Wellington) のライフポイントプレイグループ (Lifepoint Playgroup) の活動を取り上げ、認証制度に照らして考察することで制度の一部運用実態を明らかにする。最終的にそれら考察を踏まえて、同国のプレイグループの特徴と課題を明らかにする。

1. プレイグループの目的と制度的位置づけ

(1) プレイグループの目的

プレイグループの目的は、「地域コミュニティを基盤としたグループにおいて、親やファナウ（以下、保護者）が共に顔を合わせる機会を創ること」、「子どもたちに保育を提供すること」である。

ニュージーランドにおけるプレイグループは、1960年代半ば以降、先住民族マオリの団体や教会が運営母体となり、孤立した農村地域や都市部を中心に発展してきた⁹⁾。現在、プレイグループは人々の多様なニーズに合わせて、ニュージーランドの様々な地域で設立運営されている¹⁰⁾。

プレイグループの活動は非営利事業に分類され、保護者メンバーの自主運営を基本として行われる。1日4時間を活動時間の上限として、活動回数や時間、参加費用¹¹⁾等は各グループで決定する。対象は、誕生から就学までの乳幼児とその家族である。

また教育省では、プレイグループの活動を通じて、親の子育てにおけるエンパワーメントの促進と、地域における親の繋がり（ネットワーク）の構築を期待している。

(2) プレイグループの制度的位置づけ

—乳幼児教育に関する法令枠組み—

ニュージーランドの乳幼児教育施設やサービス（以下、乳幼児教育サービス）は、「2008 法令枠組み」

(2008 Regulatory framework)（表参照）に則り実施されている。

プレイグループについては、「教育法 (Education Act)」(1989)¹²⁾、「教育規則（プレイグループ）(Education (Playgroups) Regulations 2008)」(2008)、「プレイグループ認証規準 (Certification Criteria for Playgroups)」(2008)、及び「プレイグループ認証規準手引き (Guidance for Playgroup Certification Criteria 2008)」(2008)において規定されている。「教育規則（プレイグループ）」においては、プレイグループ認証 (certification) に係る必要事項¹³⁾ や管理運営を含めた活動に関する基準 (standards) が、「プレイグループ認証規準」においては、認証に係る規準内容が詳細に示されている。

教育法の改正 (2006) を機に、「教育規則（プレイグループ）」は、他の乳幼児教育サービスに係る規則「教育規則（乳幼児サービス）(Education (Early Childhood Services) Regulations 2008)」(2008) と共に、そのうちに区分を有しつつも法令枠組みに組み込まれることとなった。

こうしてプレイグループが、乳幼児教育サービスとして制度的に位置づけられたことは意義深い。すなわち、制度的な位置づけは、プレイグループに同

第1層	教育法(Education Act) ▲異なる ECE サービスタイプの定義 ▲規則や規準改正の承認 ▲教育大臣への国家 ECE カリキュラム枠組みの (NZ 官報による) 法制化権限の付与			
第2層	幼児教育規則(ECE Regulations) 認可サービス(Licensed services) ▲認可プロセス ▲構造要件 (例:有資格者の割合、最大構成員数) ▲雑則 ▲基準		認証プレイグループ (Certificated Playgroups) ▲認証プロセス ▲雑則	
第3層	規準(Criteria) (基準遵守義務に向けて)	家庭型サービス	病院型サービス	認証プレイグループ
ガイダンス(—法令ではない) ▲事例、指針(モデル)など ▲配慮事項 ▲役立つ情報				

(「2008 法令枠組み」を基に作成)

国の乳幼児教育サービスとして、質の確保と向上を明確に要請することを意味し、そこにおける認証制度は、質を確保するための仕組みとしての役割を今まで以上に担うことになったからである。具体的に、認証による補助金交付については、以前よりも適格かつ厳格な審査が行われることになり¹⁴⁾、補助金の使途についての説明責任も強化されることとなった。つまり、プレイグループを補助金という可視的ツールをもって厳格に審査判定し、価値づける機能を持つことで、認証制度はそのステイタスを高めたといえる。

次に、プレイグループの認証の仕組みと規準内容について見ていく。

2. プレイグループ認証の仕組みと認証規準内容

(1) プレイグループ認証の仕組み

プレイグループの認証には、次の手続きが必要となる。まず、プレイグループ設立の際は、地域の教育省スタッフとの協議を行い、設立の許可を得る必要がある。協議では、プレイグループ設立の必要性

が問われる。同じ目的をもつプレイグループが、すでに同地域に開設されている場合は設立の許可が下りないことがある。

設立の必要が認められると、グループ設立者は、グループの活動内容が「教育（プレイグループ）規則」及び「プレイグループ認証規準」を充足していることを示す認証申請書を作成し、教育省へ提出する。そして申請書を基に教育省スタッフによる現地審査が行われ、審査に合格すると、プレイグループとして認証されることになる。

認証有効期間は3年で、3年ごとの更新制となっている。認証期間中は、教育省へグループの活動報告書を年度ごとに提出すること、教育省スタッフによる点検監査を受けることが義務付けられている。活動報告書は、グループへの補助金配分等の参考資料として用いられるため、活動時間、参加者数、民族的割合、年齢、性別などについての情報を記載することになっている。

認証による補助金の交付にあたっては、認証規準の充足にあわせて、「プレイグループ補助金ハンド

【カリキュラム】

プレイグループの活動は、ナショナルカリキュラム「テファリキ(Te Whariki)」¹⁷⁾の理解を基に計画構成し、活動後は振り返りを行うこと、子どもの振る舞いや行動に対する関わりや手立てについての手引きを用意すること、が要件として挙げられる。また「テファリキ」に考慮していれば、その地域や参加者のニーズに基づいた活動を行うことが可能である。具体的な活動内容に関する情報は、インターネットから入手できること、子どもへの対応の仕方などは地域の教育省スタッフに助言を求めることができることと記されている。

【施設設備】

施設設備に関しては、子どもが活動を行う際に十分なスペースが確保されており安全を保持できること、参加者への文化的配慮がなされていること、教材や教具は、安全かつ学習効果を備えた子どもが興味関心を持てるものであること、またそれらがきちんと管理されていること、活動場所は交通面と安全面の双方からアクセスの利便性を備えていること、個人宅でなければ公共のホール等を利用しての活動が可能であることなど8つの項目が挙げられる。施設の間取りやレイアウト、トイレや洗面乾燥器具に至るまで細かな要件が定められている。

【健康管理】

すべてのプレイグループが有事の際には適切な措置を取れるように参加者と共に対応と手順を確認しておくこと、また参加者が利用する物や口にする物についての衛生管理の必要があることなど、プレイグループの活動における健康安全管理については、緊急時の対応と非難時の手順の危機管理と衛生面の管理など10項目が挙げられている。

【管理運営】

プレイグループに管理運営について、財務管理、メンバーの入会や出席管理、活動継続のための手続きや記録など5つの項目が挙げられている。具体的に、運営活動費の試算、参加費用の決定、地域や団体からの寄付享受や教育省からの補助金の管理、教育省との連絡など、管理運営上の事柄について参加者の協議に基づいて意思決定を行い、分担して仕事を行うこととなっている。また、参加者には補助金や参加費の運用状況について報告する責務があることが付記されている。

(「プレイグループ認証規準」(2008)をもとに作成。)

ブック」(Playgroup Funding Handbook)に則り、補助金受託のための条件を満たしている必要がある¹⁵⁾。補助金の継続的な受託には、年に一度、教育省へ受領した補助金額とその用途について報告しなければならない。

現在、認証申請は、各グループの裁量に任せられており任意事項である。実際のところ、煩雑な手続きを伴う認証制度に対して消極的なグループも少なくないが、教育省は2014年を目前に、すべてのプレイグループが認証手続きを行うよう働きかけをしている。

(2) プレイグループ認証規準

「教育規則(プレイグループ)」における基準(a)1日の保育時間4時間を越えてはならない、(b)同じ場所、同じ時間に、親や保護者は子どもの参加人数の半数以上出席していなくてはならない¹⁶⁾を踏まえ、プレイグループ認証規準が次のように定められている。

プレイグループの認証規準には、カリキュラムについては基本的に「テファリキ」に考慮したものであればメンバーのニーズに応じて柔軟に組み立てられること、施設設備については公設施設の利用が認められていること、管理運営については、その仕事と役割がすべてメンバーの協議に基づいて決定されることなどが挙げられている。これらは、他の乳幼児教育サービスに比して許容範囲の広い内容となっており、緩やかな規準内容といえる¹⁸⁾。加えて、保育有資格者の配置規程がないことを指摘しておきたい。(前頁参照)

次に、ウェリントン市の認証プレイグループを事例に、プレイグループの実際の活動と認証制度の運用状況について考察する。

3. プレイグループの実際 —ウェリントン市 ライフポイント プレイグループを事例に—

(1) ライフポイントプレイグループ(Lifepoint Playgroup)の概要

ライフポイントプレイグループは、ニュージーランドの首都ウェリントン市において、設立当初(2004年)から教育省の認証を受け、活動しているグループである。グループの中心的役割(リーダー)は、パケハと言われるニュージーランド人2名が担っており、その他多くのメンバーは、それぞれ多様な民族的背景を有している。リーダーは、保育有資格者で幼稚園の勤務経験がある。

グループの活動目的¹⁹⁾は、①地域に住む子どもたちへの学びの機会の提供、②地域住民のネットワーク構築の機会の提供である。グループメンバーは、周辺地域に住むものが大半で、固定のメンバーとカジュアルメンバーを合わせて20組程度である。活動時間は毎週火曜日午前中10時から12時、参加費は無料であり、活動場所は教会内のホールである。活動内容は、自由遊び、設定保育(歌、ダンス、リズム体操など)、モーニングティーで構成されているが、気候の良い時は公園へ遊びに行くこともある。では、ライフポイントグループの活動の様子を詳しく見ていく。

(2) プレイグループの活動の様子

訪問日時：2011年3月1日(火)9時30分～12時

活動場所：教会ホール

参加家族数：10組 活動内容：自由遊び、設定あそび(音楽リズム活動)、モーニングティー
次の表を参照

9時30分— 活動開始前
グループのリーダーが、保育環境を設定する。この日、設置された自由遊びの遊びコーナーは、おままごと、絵本、砂場(部屋の隅にシートを引いて、砂場をつくる)、ブロックであった。ホールは、通常は別の用途で使用されているため、毎回の活動が始まる前に、必要な教材教具を倉庫から出して環境を整えている。
10時— 自由遊び
最初にグループを訪れたのは、ニュージーランド滞在4年目のインド系家族(母親と子ども)と滞在数か月の中国系家族(祖母と子ども)であった。彼らは、互いに共通の言語を持っておらず ²⁰⁾ 、子どもたちの様子に顔を見合わせて微笑む様子はあったが、会話を交わしている姿は見られなかった。 10時を過ぎると、参加者が集まり始めた。生後数か月の乳児から4歳までの子どもが、それぞれ保護者に連れられてきていた。父親や祖父の参加も見られた。参加者の民族的背景は、確認できるだけでも、パケハ、マオリ、インド、中国、マカオ、アフリカの6つあったが、互いに「こんちは」「元気?」と簡単に挨拶を交わしあう姿が見られた。 子どもたちは、それぞれリーダーが設置した遊びコーナーで自由に遊び始めた ²¹⁾ 。途中、子どもか

ら新たな遊びのリクエスト（粘土遊び）があり、リーダーがそれに応えて、粘土の材料をテーブルに用意していた。材料を練って粘土を作り始めた子どもの周りには、自然と他の子どもも集まってきて、出来上がったばかりの粘土の温かさや柔らかさの感覚を楽しんでいた。言語や年齢の違いから言葉によるコミュニケーションは多くはないが、同じ場所で、同じ遊びを楽しむ子ども達の様子が見られた。

保護者は、子ども達が自由に遊びを楽しんでいる間、何かあればすぐに声を掛けられる距離感で子どもの様子を見守りつつ、それぞれのスタイルで過ごしていた。子どもと遊びを楽しんだり、ソファに座って保護者どうし会話を楽しんだり、ホールの隅に設けられた絵本コーナーの本を手に行っている者も見られた。本棚には絵本だけでなく、子育てに関するものから生活情報誌や小説などが並んでいて、それらの本は借りることもできる。

リーダーは、子どもの遊びに指示したり指導したりすることはない。例えば、先の粘土遊びを楽しんでいた子どもはやがて別の遊びに興味を示して、その場を離れたが、片づけを促したり、粘土を触った手を洗うように指示したりしている姿は見られない。また、保護者に対しても自分の子どもを見るように指示することはない。但し、自分の居場所を探せずにいる保護者には、積極的に話しかけている様子が見られた。

10 時 30 分— 設定活動

リーダーの掛け声で歌やリトミック活動が始まった。当該プレイグループでは、リーダーが参加者の声を聴きながら、子どもと大人と一緒に簡単に楽しめるプログラムを組み、展開している。

まずはじめに、保護者と子どもがペアとなり、保護者は子どもを前に抱えて輪になって座り、手遊びが行われた。リーダーも子どもを抱えて輪に入った。手遊びは、参加者の子どもの名前が順に呼ばれていく内容のもので、英語だけでなくマオリ語や中国語やヒンディー語も使われていた。続けて誰もが知っているようなポピュラーな歌を3曲続けて全員で歌った。

歌い終わると、次は流れてくる曲に合わせて、身近な物を楽器に見立てて自由に弾き鳴らす遊びが始まった。リーダーが子ども達にお手本を見せると、子ども達は夢中になって楽器を鳴らし始めた。まだ楽器を鳴らせない幼い子どもがリズムに合わせて体を動かし始めると、リーダーはその様子に気が付いて、今度はダンスを始めた。最後はリーダーを先頭に、参加者と列を作ってダンスをしながらホール内を歩いてまわった。

ダンスを終えると、次に、リーダーのアイデアによる音遊びが展開された。綺麗な色の大きな布を用いて、音にあわせて、子ども達を覆い隠したり、一気に布を取り除いたり、静かな音色に合わせて布をゆったりと泳がせたり、音や布の感触を楽しむ子どもの様子が見られた。最後に、もう一度輪になり、1曲歌を歌って、この日の設定活動は終了した。

最初は、緊張していて輪に入りづらそうにしていた保護者も、周りの楽しい雰囲気につられて、またリーダーが上手に活動へ導いていくことで、次第に笑顔を見せるようになっていた。一方で最後まで輪に入らない保護者もいたが、リーダーが彼らに注意したり指示したりすることはなかった。

11 時 10 分— モーニングティー

設定活動が終わると、リーダーを中心に保護者がモーニングティーを用意した。子どもたちは、テーブルについて水を飲んだり、リンゴを食べたりした。リーダーからクッキーが配られたが、全員に平等に配布されるわけではなく、欲しい子どもにだけ渡していた。保護者は、おのおののカップを手にとって、珈琲や紅茶を、それぞれ好きな場所とスタイルで楽しんでいた。

11 時 30 分— 活動終了後

モーニングティーを楽しむと、自分が使ったカップやお皿、遊んでいた教材教具を簡単に片づけて順々に解散となった。

最後に残ったのは、この日初めてグループを訪れた家族であった。マカオから数週前に移住して来たこの家族は、母子家庭(1歳児)で知り合いもないため頼る者がなく、就職活動をしているが英語で

の会話が難しいため見つけられず、新しい生活に慣れるのに苦慮している様子であった。リーダーは、母親の話を、身振り手振りを交え、メモを用いて根気強く聞いていた。そして、市内には同じ言語を話す人が他にもいるので友人を早く得ること、英語力を身に付ける必要があることを伝え、最後に地域のコミュニティセンターで実施されている英語教室に照会した。この英語教室は、子ども連れで参加することができ、費用は無料であるという。母親は嬉しそうにお礼を述べて帰っていった。

参加者が全員帰ったあと、リーダーはこの日の活動内容を記録し、すべての教材教具を再び倉庫へ片づけてホールを元通りにして、この日の活動を終えた。

(3) ライフポイント プレイグループの特徴と課題

ライフポイントプレイグループの実際の活動の様子とメンバーの意見や感想から、グループの特徴として次の点が指摘できる。1) 多文化多言語な環境において活動が行われている。2) 保育有資格者がグループの中心的役割を担っている。3) グループメンバーのバックグラウンドが多様であり、社会的マイノリティを多く含む。4) グループの運営管理における役割分担に偏りがある。

1) 多文化多言語な環境において活動が行われている。

メンバーの文化的背景の多様さを積極的に捉えた活動内容が組まれている。例えば、手遊びでは子どもに合わせて、ニュージーランドの公用語以外の言語も使われている。また壁には、メンバーの出身地が一目で分かるような写真を貼った世界地図が掛けられていたり、様々な言語で「こんにちは」と書かれたカードが目につく所に掲示されていたりする。こうした環境設定の背景には、様々な言語に触れることで楽しさや興味関心を持ってもらいたいというメンバーの願いがある。

また一方で、グループではニュージーランド社会の習慣や行動様式について知る機会も大切にしている。例えば、始まりや終わりの挨拶がないことや、おやつクッキーは意思表示をしなければ貰えないことなどは、そうした習慣のない者にしてみればカルチャーショックともいえる経験となる。しかし、子ども達がこれから同国の社会の一員として生活していくことを考慮すれば、こうした文化的要素を含む経験は貴重であると捉えている。

当該グループでは、おのおの子どもが自身の文化的アイデンティティを尊重されつつ活動に参加できるような環境があるといえる。

2) 保育有資格者がグループの中心的役割を担っている。

当該プレイグループでは、子どもの文化的習慣や特徴に配慮した環境設定や指導援助など、保育の専門的な知識や技術を要する場面が多い。また保護者

は、子育てにおいて生起される諸問題に応える地域の各種機関や施設についての情報や照会を望んでいることも多く、保護者の状況に応じた適切な助言と対応を必要とすることも少なくない。そうした状況において、保育有資格者であるリーダーの存在は大きい。

もとより多文化国家であるニュージーランドの保育者養成教育においては、多文化な環境における保育の意義とそれへの知識と技術についての学びは必須項目として設置されている。さらに乳幼児教育における家族との協同の大切さや家族との対話の在り方についての理解は、ナショナルカリキュラム「テファリキ」を学んでいる者にとっては自明のものである。

「保育有資格者」「幼稚園勤務の経験者」がいることは、当該グループのメンバーにとっては重要な意味をもっているといえる。

3) グループメンバーのバックグラウンドが多様であり、社会的マイノリティを多く含む。

ライフポイントプレイグループは、英語を母国語としない家族、ニュージーランドへ移住してきて間もない家族、ひとり親の家族、貧困家庭など、いわゆる社会的マイノリティを多く含む多様なニーズを抱えたメンバーの特徴を備えている。実際のところ、このようなメンバー構成のプレイグループは、移民の増加が顕著である都市部において特に多く見られる。

社会において孤立しがちな彼らにとって、子どもと一緒に参加できる、参加費用がかからない、グループの管理運営に係る細かな役割分担についての強制がない、といった当該グループの性質は好意的に受け入れられている。さらに、グループは自分と同じような境遇の者との出会いがあり、地域の情報や子育てに関する情報を交換できる機会となっている。

まさに安心安全な空間と時間が保証される場であり、ニュージーランド社会へのアクセスのきっかけを得られる場となっていることがわかる。

4) グループの運営管理についての役割分担に偏り

がある。

当該グループでは、特定のメンバーがグループの運営管理、例えば、教育省へ提出する文書作成や補助金の管理、活動計画の組み立て、ホールの準備や片づけまでを担っており、一部のメンバーに過重な役割が課されている。

グループ設立当初は、自分たちが遊んだ教材や教具の片づけさえ行う者はいなかったという。このままでは、プレイグループの本来の意義を見失いかねないと危惧したリーダーは、プレイグループの趣旨をメンバーに改めて説明し、メンバーとして最低限守るべきルールを取り決めたルールブックを作成した。そして、グループの一員としての活動を促すなどして、メンバーとの間に共通理解を図るための取り組みを試みてきた。

しかし依然として、メンバー全員で協力体制を築くことは難しく、当該グループの目下の検討課題となっている。

これらライフポイントプレイグループの特徴について、認証制度に焦点をあてて考察すると、次の点が指摘できよう。

多様な民族的背景をもつ子どものニーズに合わせて多文化多言語な活動が保育有資格者を中心に積極的に取り入れられ、行われていることは、カリキュラム基準の許容性が有効的に活用されていること、そしてグループ活動の質の確保においては有資格者の存在が大きく貢献していると捉えることができる。また多様なニーズを抱えた家族のアクセスを妨げることのない垣根の低い、オープンな環境が作りだされていることは、すなわち、グループの参加条件がメンバーの潜在的ニーズに合致していることを示しているといえる。

しかし一方で、グループの管理運営については役割分担に偏りがあり、自主運営の基本的体制が築かれていない。これでは、リーダーが危惧しているように、メンバー一人ひとりの子育てにおけるエンパワーメントの促進を期待することは難しい。この点、当該グループは規準内容を充足しているとは言いがたい。

ライフポイントプレイグループは、2012年にも認証継続のための申請を行っている。申請時の状況は訪問時とほぼ変わりなく、現在もグループの管理運営体制改善のための方途は見つからないままである。しかしながら、当該グループには昨年と同様に補助金受容手続きの書類が教育省から届いている。このことから、杜撰な認証が行われていると言わざるを得ず、認証制度が十分に機能していないことがわかる。

4. ニュージーランドにおけるプレイグループの特徴と課題

これまでの考察から、ニュージーランドのプレイグループは、制度的な位置づけにより認証制度が確立したことで、同国の乳幼児教育サービスのひとつとして明確に価値づけられると同時に、その質の確保と向上が必至の検討課題になったことが明らかとなった。またプレイグループの実際についての考察からは、メンバーのニーズに応じた規準内容の取扱いと規準内容の遵守の状況から認証制度の運用実態についての一部を窺い知ることができた。ここでは、本研究において得られた知見を踏まえて、ニュージーランドのプレイグループの特徴と課題について、認証制度に焦点をあてて整理する。

プレイグループは、その比較的緩やかな認証規準から、次のような特徴を生出していると考えられる。例えば、活動内容についてはナショナルカリキュラム「テファリキ」に準拠してあれば、活動計画を自由に立てられる。これはメンバーの多様なニーズに柔軟に答えられることを意味する。施設設備面に関する許容範囲や保育有資格者の配置規程の不在は、グループの設立における費用や活動費等の資金工面を容易にしている。また、プレイグループは他の親主導型のサービスと比べても、メンバーによる自主運営管理における役割や分担業務の負担が少なく、このことはサービスの利用や選択における利用者側のハードルを下げる要素となっており、結果的に参加しやすい条件を提示している。これらの性質は、幅広いニーズへの対応を可能にし、利用者確保の誘因になっていると考えられる。まさに、規準における許容性を最大限に活用した際に抽出されるプラス（正）の側面といえよう。

合わせて、これらの特徴を有したプレイグループは、今日の同国の乳幼児教育が抱える諸課題の解決の一助をなしている。例えば、多様な文化的背景を有する子どもへの保育の在り方については、子どもに様々な経験を提供することが必要であるとして、多文化多言語的な活動を意識的積極的に取り入れることが課題となっているが、その点、プレイグループは柔軟かつ即座に対応できるものといえる。また、ニュージーランドの教育改革全体においては、近年、社会的バックグラウンドによる子どもの教育機会の格差が問題となっており、とりわけ社会的マイノリティの教育アクセスの向上が図られているが、乳幼児教育段階においても、すべての子どもの教育機会の保障に係る試みが行われているところである。教育機会へのアクセス向上という意味においても、プレイグループは大きな役割を果たしているといえよう。

しかし一方で、こうしたプレイグループの特徴は、マイナス（負）の側面も有している。乳幼児教育サービスとしての質の確保や向上から考えると、規準の広い許容性がかえって規準の充足ないし遵守において不都合さをもたらしていると指摘できるのである。

例えば、カリキュラムに関する規準内容については「プレイグループ認証規準手引き」をはじめ、インターネットなどからの情報提供や地域の教育省スタッフへの相談という手段で充填するかたちとなっているが、実際のところ、ナショナルカリキュラム「テファリキ」の理解に基づく活動計画の組み立てや指導援助、施設設備の安全面や衛生面の管理等は、専門的知識や技術を身に付けた者でなければ実行することが難しい面もある。このことから、保育有資格者の配置規程は、グループのメンバーや状況によっては重要な意味をもつことがわかる。プレイグループが、乳幼児教育サービスとして一程度の質を確保した活動を行ううえでも検討の余地が残されているといえる。

さらに、認証制度の運用実態を見ると、認証制度そのものが、質の確保や向上の点において的確に機能しているかどうかは疑問の余地がある。本来ならば規準内容の許容範囲が広いほどに、認証の判定は専門的かつ慎重に行う必要があると考えられるが、現状では、認証は書類等の提出が主であり、実際の活動についての視察もかたちだけで済まされていることが、先の事例からも窺える。認証制度が形が変化していると言わざるを得ない。プレイグループの認証制度が補助金の交付と直結していることに考慮しても、内実を伴ってその機能を果たすための仕組みや認証規準の再検討が必要になるといえる。まさにプレイグループに課せられた課題であろう。

おわりに

ニュージーランドのプレイグループは、その認証規準における許容性こそが利用者のニーズに応ううえでのアドバンテージであり、且つ、その性質こそが、乳幼児教育サービスとしての質の確保と向上を図るうえでのディスアドバンテージとなり得ることが明らかとなった。同国におけるプレイグループの発展を考えるならば、この両者、すなわち「利用者のニーズ対応」と「質の確保」とのマッチングを実現できる方途を模索する必要がある。そして、その方途を見つける糸口となるのは認証制度の検討といえよう。本研究においては、認証制度が有効に機能するための要件や要素についての具体的解明には至らなかった。またその探究においては、当然、プレイグループに求められる「質」とは何か、その内

実についての検討が必要となるであろう。今後の研究検討課題としたい。

- 1 本稿において乳幼児教育 (Early Childhood Education) とは、特に断りのない限り、誕生から就学年に達するまでの乳幼児を対象に教育と養護 (ケア) を提供する施設やサービス全般を指す。尚、ニュージーランドでは5歳の誕生日を迎えると小学校へ入学することが一般的であることから、乳幼児教育の対象は5歳未満児を指す。
- 2 例えば、3歳4歳児を対象とした週20時間の無償保育、教師主導型施設の正規職員 (有資格教員、登録教員) の増員とそのため支援策、保育における子どもと大人比率の改善、施設設置基準の見直し、自己評価ガイドラインの作成、幼小の連携、親主導型保育の質向上のための調査研究等が検討された。
- 3 ここでいうエンパワーメントとは、乳幼児教育 (子育てを含) における自律と自律への支援を意味する。
- 4 ニュージーランド教育省は乳幼児教育施設やサービスを保育の形態により、教師主導型と親主導型に大別している。前者には幼稚園や教育ケアセンターなどが、後者にはプレイセンターやプレイグループなどがある。具体的に親主導型のサービスは、保護者が子どもを教育ケアし、サービスの運営を行うといった自主運営管理が前提とされる保育形態である。どちらの形態にも同国の乳幼児教育サービスとして同等に価値が置かれている。
- 4 ここでいうエンパワーメントとは、自律と自律への支援を意味する。
- 5 プレイグループにはこれまでも認証制度による補助金交付が実施されていたものの、乳幼児教育サービスとしての位置づけは曖昧であり、他のサービスの二次的副次的サービスとして取り扱われていた。BR p.11-
- 6 プレイグループは、5つの活動の総称 (Playgroups-General, パシフィカプレイグループ (Pacific Island Early Childhood Groups), プナコハンガレオ (Ng Puna K hungahunga), Licence-exempt Playcentre, Licence-exempt K hanga Reo) であるが、本稿においては、一般的なプレイグループ (Playgroups-General) について取り上げる。
- 7 Playgroup Attendance <http://www.educationcounts.govt.nz/statistics/ece2/participation>
Prior participation in ECE <http://www.educationcounts.govt.nz/statistics/ece2/participation>
- 8 松川由紀子『ニュージーランドの保育と子育ての支え合い』溪水社、2000。
- 9 前掲
- 10 例えば、コミュニティやメンバーのニーズに合わせて、特定の文化や言語の伝達と学習を主とするグループや、要保護女性や10代の親、父親を対象としたグループなどもある。
- 11 費用は、毎回1~5NZドル程度のところが多く、無料や

募金となっているところがある。また学校期間毎(ターム毎)や年会費などを設定している場合や、役員手当を別に設けている場合がある。

- 12 2006年教育法条項改正(Education Amendment Act2006) section53, 319
- 13 仮認定(interim certificate)と正認定(full certificate)とに大別され示されている。
- 14 これまで補助金の申請は簡単な理由書の提出のみで、補助金用途の説明責任も問われることはなかった。
- 15 補助金は、大別してプレイグループ補助金と特別助成金がある。
- 16 さらに少なくとも、4人の子どもに1人以上の大人が同じ時間、同じ活動エリアにいる必要がある。
- 17 1996年に導入されたナショナルカリキュラムである。子どもの発達課題の達成を目指すカリキュラムではなく、4つの理念(エンパワーメント Empowerment、全体的発達 Holistic Development、家族とコミュニティ Family and Community、関係性 Relationship)と5つの原理(心身の健康 Well-being、所属感 Belonging、貢献 Contribution、コミュニケーション Communication、探究 Exploration)を柱にした理念的なカリキュラムである。
- 18 「幼児教育規則(Education (Early Childhood Services) Regulations 2008)」を参照されたい。
- 19 本文に挙げた目的以外に、当該グループの活動は教会の慈善活動の一部にも位置づけられている。
- 20 中国系家族は全く英語が使えず、インド系家族も英語でのコミュニケーションに強い苦手意識を持っていた。
- 21 日本で行われているような朝の会や始まりの挨拶を一斉に行うことはない。この様子は、ニュージーランドの乳幼児教育施設では一般的な朝の光景である。